（様式第３号）

平成１６年度調査研究中間報告書

調査研究課題	茨城県におけるエイズウイルス（ＨＩＶ－１）の薬剤耐性変異の動向
計画期間	平成１６年度～１８年度　　３年間
調査研究計画	HIV 感染症の標準的な治療法として多剤併用療法が定着し、病状の進行を遅らせることができるようになった。しかし、薬剤耐性変異株の出現が治療を進めていくうえで深刻な問題となってきている。本県は、わが国でも HIV の高度感染地域の１つであるため、HIV-1 の薬剤耐性変異の動向を把握することは、今後の HIV 対策を進めて行くうえで大変重要である。 薬剤耐性変異の解析のために、①保健所を窓口として HIV 抗体検査の依頼のあった検体のうちの保存されている陽性血清と、②エイズ拠点病院の臨床検体について，感染 HIV の遺伝子検査を行う。
進歩状況	1999 年から 2002 年までに保健所で採血された HIV-1 陽性血清 14 検体について、薬剤耐性変異の検出を試みた。
これまでの成果の概要	感染 HIV のプロテアーゼ領域と逆転写酵素領域の配列を解析した結果、逆転写酵素領域において１検体（7.1%）から１つの Major Mutation（T69D）が検出された。本県でも未治療とみられる例において薬剤耐性変異株の出現が確認されたことから，今後，注意深く監視していくことが必要であると考えられた。
今後の計画・課題対応方法	HIV 変異株出現の動向を調べるためには、全国的なモニタリングシステムの中で研究することが、より効果的な成果を生み出すことが期待される。よって、「厚生省 HIV 検査法と検査体制を確立するための研究班」のメンバーとして共同研究（10 地方衛生研究所、2 研究施設）を行うこととする。

※　研究成果等の資料があれば添付すること。